

一般向け 今川図書館だより

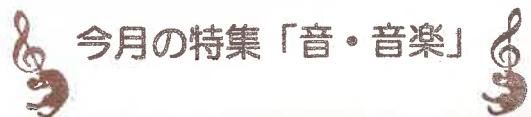
いまがわーんど

2019年 11月号

今月のテーマ

「音・音楽」





今月の特集「音・音楽」

静寂の図書館から、一歩外へ踏み出すと、様々な音の嵐に包まれます。

季節を感じる自然の音、勇気を与える音楽、人生を豊かにする効果音など、本の中に静かにあふれる音を感じてみませんか。

『あかちゃんのごきげんがよくなる』

12のわらべうたえほん

小林衛己子 / 編 2006年 ハッピーオウル社 599円

わらべうたは昔から伝わる「子育てのわざ」といえるものです。お母さんと一心同体の安心の世界から、はじめて離れて「誕生」したあかちゃん。人の肌のあたたかさや鼓動を感じ、声を聴くことで不安は和らぎます。まだ「ことば」をもたないあかちゃんに語りかけようとするとき、わらべうたをいくつか知っているだけで、こちらも気楽に、楽しく向かい合えます。

いつでもどこでもうたって遊べる12曲を、動きのコツとともに絵本のようにまとめた一冊。あかちゃんと過ごせる時間は限られているもの。みなぎる生命力と触れ合って、大人も子どもも笑顔いっぱいの一ときを。



『空耳の科学 だまされる耳、聞き分ける脳』

柏野牧夫 / 著 2012年 ヤマハミュージックメディア 491.3円

空耳というのは、簡単にいうと聞き間違いのこと。空耳の原因はいろいろありますが、そもそも、耳から入った音声は脳でどのように処理され、聞き分けられているのでしょうか。

空耳を通じて人間の聴覚の不思議に迫ります。



『たどりつく力』

フジコ・ヘミング / 著 2016年 幻冬舎 762円

フジコ・ヘミングを知っていますか。

フジコはベルリンで生まれました。父はスウェーデン人画家、母は日本人ピアニストの芸術一家。特殊な生い立ちながら、成長の過程で、独特の世界観や価値観を育み、聴力を失うアクシデントにみまわれても、苦難を乗り越えてピアニストの夢を叶えていきます。

「私の人生には、どんな時でも必ず音楽が隣にありました…。」「音楽で“喜びの種”をまきたい。」運命を切り拓いたフジコの力強いメッセージを綴った一冊です。



『音のことは』

ネイチャー・プロ編集室 / 構成・文 2003年 幻冬舎 814円

昔から、日本語にはその状況や常態を表す多くの「ことは」があります。中でも花やみどり、水など自然についての「ことは」は思わず納得してしまうほど、的確な響きで表現されています。

響い（おとない）、衣すれ（きぬすれ）、虎落笛（もがりぶえ）、

梵音（ぼんのん）、嘶咽く（ころろく）、妙音（みょうおん）など

これらの「ことは」の意味がわかるでしょうか。

この本には、特に音に関わる「ことは」が、美しい写真とともに集められています。どんな素敵な「ことは」に出会えるでしょうか。

『おとなの奈良 心を澄ます旅』

堀内昭彦 / 写真 2015年 淡交社 219.6円

古来より、日本人は他民族に比べ、自然の音に敏感なようだ。虫の声、吹き抜ける風が起す葉擦れの音、清流が奏でる瀬音に、心洗われるような気持ちになる人も多いだろう。

「古事記」「日本書紀」以来の神話や伝説が伝わる奈良・大和路には、静謐な空気が流れる。

「山を仰ぐ。巨木に会う。古祭に行く。水に浄められる。清らかな朝を過ごす。火に浄められる。磐座（いわくら）を拜む。」この7つのテーマによる写真は、見るだけで霊験あらたかである。心を澄まして、永劫なる生命の音と景色を味わってほしい。



『ありがとうのかんづめ 子育て短歌ダイアリー』

俵万智 / 著 2017年 小学館 911.1円

今、俳句や短歌があらためて注目されています。芸能人が勉強した俳句を発表し、順位づけをする番組もありますね。個性的な先生の指導も楽しく、俳句の人気を高めているようです。

俳句は300年以上前、短歌は1300年以上前から存在している、日本の素晴らしい文化です。俳句は5・7・5の17音に、短歌は5・7・5・7・7の31音に出来事の様子や心の動きを込めて詠みます。それぞれ抑揚が違いますが、味わうほどにリズムや言葉の響きに趣を感じます。

本書は、短歌ブームの先駆者となった俵万智さんが、子育て中に詠んだ短歌集です。その微笑ましい背景にも、心がほっこりします。



YAにおすすめ!



中高生のみなさんにおすすめの本を紹介します。
今月は、職場体験にきた中学生が紹介してくれた本です。

『てんからどどん』

魚住直子 / 著 2016年 ポプラ社 913円 (YA)

「今井さんはいつもひとりで自分の好きにすごせる。ちょっと交代してみたいもんだ。」「なぜ、同じ年、同じ性なのに、高倉さんはかわいく生まれて、私はそうでないのか？一度だけでいいから、高倉さんみたいな人になってみたい。」

明るく元気がとりの高倉かりんと、人づきあいが苦手で友達がゼロの今井莉子が、たまたまエレベーターで乗り合わせた。二人が交換してみたいと思ったその瞬間、バリバリッと雷が降り、二人は入れ替わってしまったのだ。

二人は体が入れ替わったまま生活を続けていたが、ある日髪を切り、メガネをはずしたかりん（体は莉子）のもとへ、黄色のニット帽を目深にかぶった男が現れ、「外見を変えてもわかっているんだからな。」「修学旅行の件、お忘れなきように。」と告げる。男の正体は誰なのか？入れ替わった二人の周りの人たちの反応も面白いので、ぜひ、読んでみてください。

(井草中学校の2年生が紹介してくれました)



☆「YAコーナー みんなの掲示板」☆

11月のテーマ



あなたの夢を教えてください

令和の時代はみなさんが主役!

どんな仕事がしたいですか。.



今川図書館に新しく入った本の中から、おすすめを紹介します。

『緋色のマドンナ 陶芸家・神山清子物語』



那須田淳 / 著 2019年 ポプラ社 ナ152

NHK 朝の連続テレビ小説『スカーレット』の主人公のモデルとして、注目される女流陶芸家の神山清子さん。本書は、女性が窯に触れることも許されなかった時代に、室町の頃から続く古信楽（こしがらき）の緋色の肌を蘇らせつつ、新しい造形の世界を切り拓いた、神山清子さんの半生を描いた物語。

父に振り回された貧しい少女時代、作品が入選しても認めてもらえない女性蔑視の壁、夫の裏切り、自然釉（しぜんゆう）との出会い、息子の死。その人生は波乱万丈どころか、まるで不幸の博覧会のように。しかし、そんな苦悶の中でも、道を拓いていった姿は、きっと、私たちに勇気をくれることでしょう。



今川図書館のあれこれ「音・音楽」



☆11月25日（月）から28日（木）まで蔵書点検・特別整理のため、臨時休館いたします。この期間に今川図書館の蔵書約12万冊を1冊ずつ点検いたします。

☆昔は帳簿と書物を照合した後、書物を風にさらし、虫干しました。書をさらすことから「曝書（ばくしょ）」とも言われます。

☆今はスタッフ総出で、機械を使い、1冊ずつバーコードを読み込み点検します。静かな図書館にピピッと音が響き渡る作業です。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。



地域の緑化推進を、本のチカラで強力にサポート。
今川図書館がおすすめする緑化関連資料をご紹介します。

『北欧フィランドの伝統装飾モービル ヒンメリをつくる』

山本睦子 / 編 2018年 誠文堂新光社 711ヤ

幾何学模様の立体と光と風が織りなす、自然のゆらぎが美しい「ヒンメリ」。ヒンメリは、フィンランドの伝統的な装飾品です。ライ麦のわらや葦、柳の枝などを材料に1つずつ糸でつなぎます。

元来、ヒンメリは収穫の喜びと感謝、翌年の豊作への祈り、また、家族全員の幸せを願う気持ち、これらの思いをこめて作り、1年間飾っていました。現在は、クリスマス飾りとしても有名になりました。

本書には、様々なデザインのヒンメリの写真や作り方がていねいにのっています。自然素材のやさしいヒンメリをどうぞお楽しみください。



みどりのワークショップ「ヒンメリづくり」

型絵染作家の塩野圭子さんを講師に迎え、みどりのワークショップを行います。今回は、北欧伝統の部屋飾り「ヒンメリ」を、自然なライ麦のストローを使って作りましょう。

日時：11月15日（金）午後2時～4時

対象：中学生以上 定員20名（申込順 11/1より受付）



◇展示「みどり・うつろう」◇

山の頂から麓へ、列島の北から南へ、鮮やかな赤や黄色にうつろいゆく木々たち。紅葉は、葉を落とし冬の準備をする前の、落葉樹から最後のプレゼント。光と彩りの妙を味わいたいものです。

場所：1階 入口横のコーナー



11月 今川図書館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
		休館日		おはなし会		
10	11	12	13	14	15	16
	おはなし会	あかちゃん おはなし会		おはなし会	みどりの ワーク ショップ	
17	18	19	20	21	22	23
	おはなし会			休館日	あかちゃん おはなし会	
24	25	26	27	28	29	30
	臨時休館日	臨時休館日	臨時休館日	臨時休館日		
開館時間 月～土 9時～21時 〇 の日（日曜・祝日）は9時～17時 休館日 第1月曜日・第3木曜日						

おはなし会については、児童向け図書館だよりをご覧ください。

杉並区立今川図書館

杉並区今川4-12-10 TEL 03-3394-0431